

地域おこし協力隊通信

第6回

「2つのイベントを
開催しました」

地域おこし協力隊 石井紀子

協力隊の石井です。皆さん7月はお忙しかったと思いますが、私も負けじとイベントを二つ開催しました。今回はその様子をお伝えします。

「やまぎわ市場と音楽会」というイベントにて、常福院と安楽院の歴史と仏像を紹介しました。20〜40代の参加者が多く、地域の歴史に興味を持っている若い世代が身近にいてうれしいです。

内容は、仏像の作り方や、紹介した仏像が作られた江戸時代後期における山口区の農作物の収穫量や出羽三山信仰および、米沢藩の財政改革などを通覧すると、豊かな



文化と人々の楽しみが見えてきて面白い！というものでした。

蚕桑地区外ですが、中山寺(中山)の置賜三十三観音を調査しました。中山地区の方に仏像の施主は誰のご先祖かとお聞きして、史談会の重鎮達に崩し字を讀んでもらいました。その結果、三十三観音は明治13年に作られ、施主は87人おり、うち57名の子孫の名前と現住所が分かりました。136年も前の事を記憶しているのは地域に根差して生きてきたからこそできることで、感嘆するばかりです。

白鷹町に来て早8ヶ月、ようやく皆さんに調べた事をお話ししたり、一緒に調査をできるような活動を増やしていけるようがんばります！

町報川柳 — 細 —

不細工な野菜が自慢祖父の口
細々と暮らす田舎の母想う
細心の注意怠り我転ぶ
入梅細い雨すだれ湯の香り
細ぼそと生きる老後も有楽我浄と
叱られて細い山道行く子あり
さあ行こうおくのほそみちマイカーで
細やかな気配り胸に感じ入る
お互にゆづり合ふ道細い道
しみじみと眺める腕も細くなり
町おこしこの細うででがんばるぞ
交通安全細心のルールを常に
強く生きる病氣と向き合い細き腕
細くとも秋には実り黄金色
細腕で五人の子供育て上げ
いくたびかやまい(大病)に耐えた細き腕
細き道の先にこそあれ桃源郷
明細書受取て家計簿
若盛り細身に憧れ薬効なし
細く長く無理せず生きる
細かった体も今はげき太り
かじられた臍の細さににが笑い
針の穴昔はと言いい目を細め
細腕に田畑の稔誰がため
やま蚕の細い糸今も育くむ深山人
嫁ぎ来て手慣れぬ事のか細い手
細々と生きて人生良きとする
手細工にピカリと光る祖母の腕
細腕で泣いて花咲く夫婦船
三代目親類の絆細くなる
姿見の中の我が身に細き溜め息
細腕に重いもの上げ良くもなる
雨降って心細く成り友を呼ぶ
細腕が剛腕屠る口の技
年寄りがいって細々と田が残り
得意技趣味で小細工作る爺
細くなった手足に人生重ね見る

長井市 安部ありな
高岡 安部 健一
山口 石川與次衛門
荒砥甲 五十公野かをる
荒砥乙 五十公野春己
世田谷 糸 マサ
浅立 梅津 太一
浅立 梅津美千子
滝野 海老名きち
世田谷 遠藤 八重
横須賀 大滝健次郎
萩野 川部 ち糸
荒砥乙 木口 とよ
菖蒲 小関 弘
山口 児玉 保子
萩野 紺野 五月
鮎貝 佐藤 幸子
箕和田 鈴木 トミ
荒砥甲 鈴木美貴子
十王 平 恒人
高玉 高橋 朝子
荒砥乙 土谷 灯一
箕和田 土屋 平敏
箕和田 土屋 敏子
広野 新野智耶子
高玉 橋本つね子
鮎貝 樋口 敬子
箕和田 樋口 昭吉
鮎貝 樋口 敏子
荒砥乙 樋口 努
町田市 保高 悦子
十王 松田 久一
ふじみ野 村上 桂造
十王 守谷 勝助
十王 守谷 三郎
鮎貝 横沢 直太
山口 渡部喜美子

次回「大」八月二十五日まで。 「輪」九月二十五日まで。
白鷹町大字荒砥甲八三三番地 白鷹町役場企画政策課情報係 宛